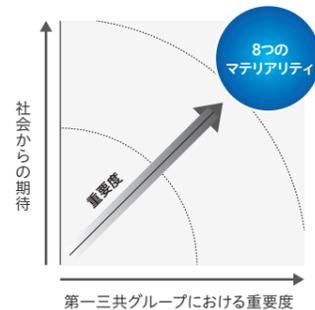


マテリアリティ

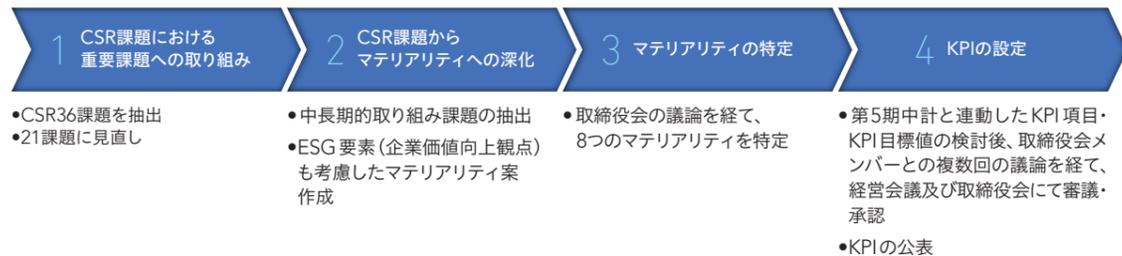
第一三共グループでは、持続的な成長に向けて取り組むべき重要課題を、当社グループにおける重要度（中長期的な企業価値に影響を及ぼす重要性）と社会からの期待の両面から、8つのマテリアリティとして特定し、「事業に関わるマテリアリティ」と「事業基盤に関わるマテリアリティ」に整理しました。第5期中期経営計画（第5期中計）の策定時に、マテリアリティ毎の長期目標と課題に加え、取り組み指標としてのKPIを設定しています。

マテリアリティの特定とKPI設定までの経緯

マテリアリティの特定と整理にあたっては、2015年度にCSRの観点から、36課題を選定しました。その後、数度に亘る見直しや経営会議・取締役会での活発な議論、ステークホルダーとの対話等を踏まえ、2020年3月に8つのマテリアリティを特定し、その取り組み指標であるKPIを2021年4月に公表しました。マテリアリティの特定とKPI設定のプロセスは、以下図示している通りです。



マテリアリティ特定とKPI設定までのプロセス（2015年～2021年）



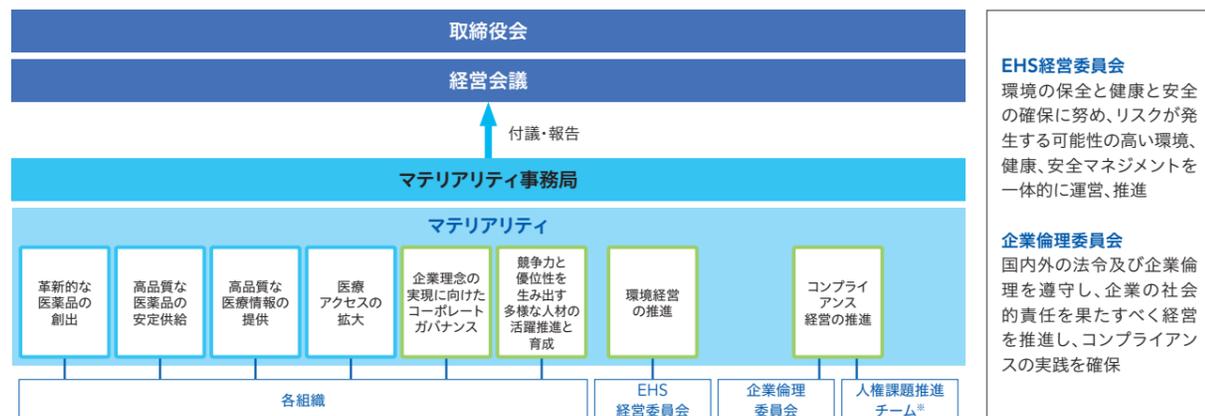
マテリアリティマネジメント

マテリアリティマネジメントは、経営企画部とサステナビリティ推進部が事務局を務める体制で推進しています。また、EHS経営、コンプライアンス経営に関わる事項については、組織横断的なメンバーで構成される各委員会（EHS経営委員会、企業倫理委員会）にて活動方針を決定し全社推進を図るとともに、重要事項については、経営会議や取締役会に報告しています。

社会からの期待・要請や外部環境の変化等による当社グループにおける重要度の変更等を迅速にマテリアリティに反映

し、さらなる進化を図るため、毎年のマネジメントサイクルの中で、それぞれに関連するマテリアリティについての目標設定や見直し、進捗管理を行い、定期的に経営会議・取締役会で議論を進めています。2022年度の議論においては、当社グループの創出する「革新的な医薬品」を患者さんにより早く治療薬として届けることで、パーパスの実現を示す新たなKPI項目として、「優先審査制度への指定数累計」を追加することを決定しました。また、近年、脱炭素社会の実現に向け、サプライチェーン（Scope1・2・3）全体のCO₂排出削減への要請が一層高まっ

マテリアリティマネジメント体制

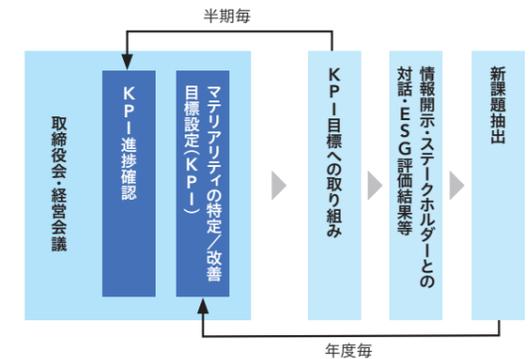


※ 社内部門横断的な組織として、人権デューデリジェンスを推進するチーム

ていることを背景に、「ビジネスパートナー（Scope3, Cat1）の70%以上が1.5°C水準（SBTレベル）の目標を設定」することをKPI目標として設定しました。さらに、2030年ビジョン実現に向け、患者さんへの貢献指標・社会的インパクト指標や人的資本経営・開示についても継続して検討を進め、取締役会で議論しました。

ESG説明会の実施や日常の取材等を通じ、投資家の皆さまを含めた社内外のステークホルダーとの建設的な対話によって当社に対する社会からの期待や要請を把握し、得られた知見をサステナビリティ推進に活かしています。特に、「患者さんへの貢献指標」については、KPI及び目標値の設定に向けて検討を進めています。

マテリアリティマネジメントサイクル



マテリアリティとその選定理由

革新的な医薬品の創出

世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献するために、当社の強み（サイエンス&テクノロジー）を活かして、革新的な医薬品を継続的に創出していくことは、当社の価値創造の根幹である。事業を通じて得た利益を研究開発に再投資し、医療ニーズに応える新たな医薬品を継続的に創出し、医療現場へ届けていく。中期では、2025年度には、がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業となることを目標に、SOC[®]を変革する先進的な製品・パイプラインを充実させる。

高品質な医薬品の安定供給

自然災害や政治的リスクのサプライチェーンへの影響がグローバルで拡大しており、取引先における調達リスクも考慮する必要がある。堅牢なサプライチェーン体制確立と高品質な医薬品の安定供給は当社グループにとって最も重要な課題の一つである。中期では、特にADCをはじめとする新たなモダリティ製品の増加に対応するため、適切な設備投資を行うことによりグローバル供給体制を構築する。

高品質な医療情報の提供

医薬品は、信頼性の高い安全性・有効性の情報があって初めて、医療関係者が患者さんの治療に安心して用いることができ、医療の課題（及びそれを通じた社会課題）の解決も可能となる。当社グループは、多領域の製品を販売しており、安全性・有効性に関する情報提供に努めていく。中期では、より患者さん個々の状態に応じた情報提供が求められるがん領域の新薬の情報創出、グローバルに医療現場に提供する。

医療アクセスの拡大

第一三共グループ医療アクセスポリシーを社員に浸透させ、政府、保険者、アライアンスパートナーなどのステークホルダーと協力し医療アクセスの拡大に努める。中期では、アストラゼナカ社との協業などを活用しながら、がん製品をグローバルに展開する。また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対応など、当社の事業基盤の活用や外部機関との協働により、社会課題の解決にも貢献する。

環境経営の推進

気候変動や海洋プラスチック問題などによる持続可能性に及ぼす影響が顕在化しており、環境対策は企業も含めて世界が一丸となって取り組むべき課題となっている。中期では、気象災害による医薬品の安定供給への懸念などを踏まえ、事業活動における環境負荷の低減と持続可能な社会に向けた環境対策にバリューチェーン全体で取り組む。

コンプライアンス経営の推進

製薬企業は医薬品という生命に関わる製品を取り扱うことから、厳格な遵法意識と高い倫理観が求められる。当社グループでは、パーパス実現のために社会から信頼される存在であるべく、社員一人ひとりが日々の活動に誠実に取り組むことができるようにグループ全体でコンプライアンス経営を推進する。中期では、グローバルなガバナンス体制やコンプライアンス推進活動の基盤をさらに強化し、コンプライアンスリスクを低減する。

企業理念の実現に向けたコーポレートガバナンス

常に化する外部環境の中、透明性が高く、実効性のあるコーポレートガバナンス体制が企業の持続的成長と中長期的な企業価値の向上に不可欠なものとなっている。当社グループは、経営環境の変化に迅速かつ機動的に対応し迅速果敢な意思決定を行う経営体制と、経営と執行に対する監督機能を両輪とするコーポレートガバナンス体制を構築し運用することで、持続的な企業価値の向上を図っていく。

競争力と優位性を生み出す多様な人材の活躍推進と育成

当社グループでは「人」を最重要な「資産」として位置づけ、グローバルな事業展開において、多様な人材の獲得や効果的な人材マネジメントを競争力の源泉として推進していく。中期では、人材マネジメント理念に基づき社員一人ひとりの多様性を尊重するとともに、バリューチェーンの各領域における人材の活躍推進と育成により、社員と会社の相互の持続的な成長を目指す。

※ Standard of Careの略。現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法